

ぽっかぽか



天間幼稚園
園長だより
第 10 号
令和 5.3.1



「あたりまえ（当たり前）」が、「ありがたい（有り難い）」

保育日数196日、59名の園児と9名の教職員でスタートした本園の教育活動も、残り12日間で終わろうとしています。卒園式、修了式を目前にして、子どもたちも、日を数え、時を惜しむ毎日です。

ちゅうりっぷ組さんやばら組さんは、憧れのばら組さんやすみれ組さんを目指して、縄跳びや雲梯、登り棒にチャレンジしたり、リレーや鬼遊びなど友達と協力しながら、元気いっぱい遊びを楽しんでいます。また、お世話になったすみれ組さんとの思い出を話しながら、お別れ会の相談やプレゼント作りを楽しんでいます。

卒園を控えるすみれ組さんは、最後の幼稚園生活としての卒園式に向けて、「卒園式ごっこ」を楽しみながら、これまでの生活を振り返っておりますが、あらためてこの世に生を受けてからの6年間の成長を思い起こして、保護者の皆様も感慨一入ではないかと思えます。

満開の桜に迎えられた入園式。小さな背中にリュックを背負った誇らしげな顔、様々な行事や参観日を楽しむ様子、友だちや先生のことを夢中になって話す姿など、一つ一つが懐かしく思い出され、大きく成長した我が子に頼もしさも感じているのではないのでしょうか。

さて、次のような詩を聞いたことがありますでしょうか。

**食べれること 眠れること 学校に行けること 友だちと遊べること
けんかできること 家族で話せること 大人が仕事をする事 健康で安心なこと
スイッチを押すと部屋が明るくなること それはあたりまえのことだった
失ってはじめてわかる「あたりまえ」のありがたさ**



これは、12年前の3月11日午後2時46分18秒に起きた日本周辺における観測史上最大の地震、東日本大震災でお父さん、お母さん、お兄さん、弟さんをなくして、一人きりになってしまった小学生の子が書いた詩です。

ここ3年間の新型コロナウイルス感染症の拡大によって、あらためて思い知らされておりますが、普段、私たちは、当たり前のように息をし、当たり前のように水を飲み、当たり前のように太陽の光を浴びて生活しています。朝昼晩の3食の食事が頂けるのは当たり前、好きな洋服を買って着ることが出来るのも当たり前、一緒に遊びに出かけることが出来るのも当たり前、幼稚園で遊んだり運動したり出来るのも当たり前と、あまりに当たり前すぎて、「当たり前・普通」のありがたさに気付かず、見過ごしてしまっています。

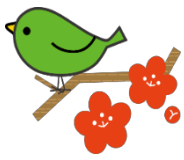
園運営におきましても、PTA役員様、評議員様、まちづくり協議会様、福祉推進会様、交通安全協会様、JAふじ伊豆天間支店様、チリンの会様、手作り紙芝居吉野様、マジックショー杉田様・ひかりのくに西野様、元公立幼稚園園長様、チアダンスC-STAR様、まちづくりセンター様、野菜作りボランティア齋藤様（ジャムおじさん）、鯉の家森川様、

サンタクロース加藤様、てんまっこの子どもたちと職員様、保育幼稚園課の皆様など、数え切れない多くの皆様のご支援とご協力をいただきました。

令和4年度が、穏やかに笑顔で終了できるのも、天間幼稚園に心を寄せてくださる皆様のおかげ、「当たり前」ではなく、「有り難い」こと、なかなかできないことなのだと感謝の気持ちでいっぱいです。だからこそ、「有り難い、有り難い」「ありがとう」という幸せを運ぶ魔法の呪文「ありがとう」・幸せを運ぶ魔法のプレゼント「ごあいさつ」・幸せを運ぶ魔法のお顔「にこにこ笑顔」を子どもたちと共に大切にしていきたいとあらためて感じております。

つたない園運営でご迷惑をおかけすることも多く恐縮しておりますが、皆様に支えていただき、何とか1年を締めくくることができそうです。保護者の皆様、天間地区の皆様、各事業所の皆様、関係各位に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。





卒園するすみれ組の皆さんに、私の好きな「黒田三郎」氏の詩を贈ります。この詩のように、真新しい匂いの中で、心の支度をしっかりと、小学校への生活をスタートさせてほしいと思います。

支度 黒田三郎

何の匂いでしょう
これは

これは春の匂い
真新しい着地の匂い
真新しい革の匂い
新しいものの
新しい匂い

匂いの中に
希望も
夢も幸福も
うっとりと
浮かんでいるようです



ごったがえす
人いきれのさ中で
だけど ちよっぴり
気がかりです

心の支度は
どうでしょうか
もうできましたか

一人一人の心の揺れ動きは、成長していくための脱皮「試練」とも言えます。人は、大変でも、「試練」を自分自身の力で乗り越えた時、「自信と勇気」を手に入れることができるのだと思います。「試練」を自分の力で乗り切れるように、私たち大人が、みんなで温かく見守り、励ましてあげたいと思います。

一人一人の子どもたちにとって、弥生、3月が素敵な「脱皮の季節」になるよう願っております。そして、「終わり良ければ全て良し」と言われるように、「よい終わり方」が「よい始まり」になってほしいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様には、本当にお世話になりました。令和4年度は今月を持って終了いたしますが、今後とも、天間幼稚園の子どもたち、そして天間幼稚園を卒園した子供たちの「笑顔と夢の実現のために」末永くご支援いただけますようお願いして、筆を置きたいと思います。

ありがとう 清水英雄

辛いことが起ると感謝するんです
これでもまだ 強くなれると
ありがとう

楽しいことが起ると感謝するんです
これで 人の悲しみがわかると
ありがとう

ピンチになると 感謝するんです
これでもっと たくましくなれると
ありがとう

辛いことも悲しいことも ピンチを乗り越えて
生きることが人生だと 言い聞かせるのです
自分自身に

そうすると ふっと楽になって 楽しくなって
人生がとても 光り輝くんです

ピンチはチャンスだ 人生はドラマだ
人生がとても すてきにすばらしく
よりいっそう 光り輝き出すんです

ますます光り輝く人生を
ありがとうの心と共に



ありがとう ともだち ありがとう きょうしつ ありがとう せんせい
ありがとう ほごしゃのみなさま ありがとう ちいきのみなさま
ありがとう だいすきな てんまようちえん
天間幼稚園は、これからも子どもたちの笑顔と夢の実現を目指します